

第3回 栃木県立益子芳星高等学校 学校運営協議会 報告

開催日時 令和3年3月17日(水) 13:30~15:30

開催場所 本校会議室

出席委員 橘川 睦子 佐久間藤也 上野 幸弘 加藤 義勝
高浜 文夫 篠原 泰三 佐藤 広志 根本いづ美

1. 開 会

2. 会長挨拶

この協議会がスタートして2年が経過した。この2年間のまとめと次年度に向かったの参考意見をお願いしたい。

3. 学校長挨拶

卒業式や入試などの大きな行事は終了した。卒業式は1・2年が自宅学習とし、卒業生1人につき保護者の参加は1名と限定して実施した。

特色選抜の倍率は1.56倍。一般選抜は1倍。定員割れをおこした昨年とは違って来年度の新入生は160名でスタートできる。

学校外の多様な方々との関わりを持つことで、生徒達の社会で自立していく力になっていくと考えている。

4. 協 議

(1)令和2年度学校評価アンケート報告

毎年11月に実施している。生徒も保護者も昨年度に比べて良い傾向が増加した。コロナの関係でボランティアとPTA活動に関する数値は下がってしまったが、一斉メールでの対応は評価された。

(2)令和2年度学習に関するアンケート報告

12月に全学年に対して実施。本校の問題点の「家庭学習0(ゼロ)時間」の生徒の割合が全体的には減少したが、学年があがるにつれて学習時間が減っているのは問題である。コロナ休校で課題が多く出され、きちんと提出させる指導が学習状況が全体的に良くなることにつながったのではないかと。それが資格・検定などの取得数の増加にもつながった。資料は12月現在の数字だが、現在はもっと増えている。

(3)令和2年度進路状況報告

白鷗大学教育学部や国際医療福祉大学、栃木県衛生福祉大学など合格しにくい学校にも合格者を出すことができた。就職については内定率約90%とコロナ禍の中で、職員の努力によって概ね高い結果を出せた。

(4)令和2年度栃木県教育研究発表大会報告

2021年1月29日(金) 会場：栃木県総合教育センター
生涯学習部会(実践発表)

「地域に貢献できる自立した人間の育成

～まち、人・・・つながりを大切にする学校を目指した取り組み～」

(5) 益子芳星高等学校の魅力化、特色化に関する意見交換

- ・生徒がボランティアなどに積極的に参加するようになって生徒の様子が変わってきたのを学校の近くに住んでいるからよく感じる。町民大学は若い人たちの参加が少なかった。子供達が積極的に地域に密着してくれるのは社会に出たときに大きな力になっていく。
- ・生徒が「ただ体験した」だけでは終わっていない。町民大学に参加するというのは県内の他の学校で取り組んでいるところはないと思う。この初めての計画について町役場で工夫やしたことや課題は何か。
- ・益子町として、益子町のPRをいくらしても地元や近隣の子供達には届いてなかった。アンケート結果で76%が良くなったと答えているが、新聞などの媒体を見たのではなく、実際に体験した上での評価が上がったことに意味がある。このカリキュラムを学校に受け入れてもらえて良かった。
- ・町民大学は年々受講者が減っていた。2年前から高校生を加えてはという意見を出してやっとな実現した。しかし町の職員も学校の教職員も異動があっとうまく引き継げないこともある。地域の協力者とともに継続していけるしくみづくりが重要。
- ・来年度以降は違うバージョンアップしたかたちで考えている。
- ・来年度は益子町と連携協定を締結し、益子町「高校生のまちづくり事業」、益子芳星高等学校「地域課題解決型授業」として整備を進めている。
- ・毎年の陶器市では作家や陶器店ができないことを益子芳星の生徒が補ってくれている。警察から「若い人たちが率先してゴミ拾いなどを行っている」と捨てる人がいなくなる。益子のイベントはとても綺麗だと褒められた。観光ボランティアに高校生がいると町がもっと明るくなる。これからも頑張ってもらいたい。
- ・高校生のボランティアの比重が高くなり、大人達がやっているときより雰囲気良くなった。陶器市という外部から買い物にくるというイメージがあるが、益子町の雰囲気が良くてリピーターになってくれるお客さんがたくさんいる。若い人たちのエネルギーが良くしてくれている。
- ・保育ボランティアも助かっている。年齢が近いので子供達も高校生が大好き。今回入試の倍率が上がって良かった。もっと益子芳星の価値を高めてもらいたい。茂木町のように、町からも予算をかけて良くしてほしい。
- ・学校生活をエンジョイしている生徒が多い。コロナ禍で一日体験は実施できなかったが学校見学会は実施できた。殆どの段取りを職員が行っているが、生徒会が主体的に活躍しているような感じにしている。広報活動も力を入れHPの改善を実施。普通科なのにコース制というのが中学生は魅力を感じる。
- ・地域との連携と生徒の学力アップが2年前の課題だった。コロナ休校の中、

生徒が不安をかかえている中で工夫したことは？

- 自主学習において取り組み方や、提出された課題の評価のポイントを説明したプリントを配布した。
- そういった取り組みがアンケートの良い結果に表れている。コロナでインターンシップができなかったで終わる学校が多い中、工夫して色々な方が協力していい流れができた。
- 第2期再編計画では1期から方向転換し、学校を地域に残すことになった。ただ残すのではなく運営協議会を設置して学校の魅力化を地域の皆さんとともにやっていきたい。生徒が探求的な学びを体験することによってAO入試などにもつながる。地域にも学校にも良い循環ができる。これから「素晴らしい取り組みをいかにアウトプットしていくかが大切。

5. その他

学校運営協議会の任期は2年間なので今回で任期満了。継続については個別に連絡。

6. 閉 会